

## 会費納入のお願い

正会員，準会員，賛助会員で昭和61，62年度会費の未納の方は，事務整理上至急ご納入下さるようお願いいたします。

払込みは北海道銀行当別支店（普通No.128259）宛，または同封郵便振替用紙をご利用下さい。  
（会計委員会）

## 原稿募集について

次号（第6巻，第2号）の発行は昭和62年12月31日です。

会員各位の投稿原稿募集の締切りは昭和62年9月30日（水）必着と致します。

期日厳守の上，ご投稿をお願い上げます。本誌投稿規定ご参照の上“提出原稿の書き方”を編集委員会にご請求下さい。  
（編集委員会）

## 編集後記

今年の冬は大雪に悩まされた経験はなかったと記憶しているが，春の訪れは少し遅れた。4月初旬にかなりの雪が降り，札幌市内は冬タイヤの取換えに困った様子であった。5月の連休は天候に恵まれなかったものの，その後の好天気で桜が急に満開し，一斉に木々が芽ぶき，蕾が開花し，緑が次第に毛氈を彩り，田圃の水入りから田植へと自然が慌しく移りゆく。また6月は緑も深さを一層増して来た。夏も間近い。こうしたさまは北海道住みならではの感慨である。

6巻1号を皆様のお手元にお届けします。原著5編，臨床2編，研修講座，新機器紹介などのご投稿を頂き，また本歯学会第5回学術大会の演説の抄録を掲載することができ感謝に堪えない。原稿を寄せて頂いた先生方に心からの謝意を申し上げる。

本誌の巻数が増加するとともに嬉しく感ずることの1つに，本誌に投稿する本学卒業生が多くなっていることがあげられる。本学会誌投稿をワンステップとして次の飛躍に備えることができるからである。若い先生方に更に多数投稿していただきたく，願います次第である。

本学会誌が刊行されて既に5年が経過しているので，ここで目で見ても新味を感じてほしいと考えて，6巻から編集の基本方針は変更せずに，表紙の一部と活字（邦字，英字）とを変えてみた。表紙のスタイルに柔軟さが加わり，活字の配置に新鮮さを感じていただくと幸である。また今迄の表紙にある紋様は本学のシンボルであるので，それをモデルにして本歯学会の新しいマークを岡田専務理事が図案化された。いかにも北海道らしい新紋様で，本号の表紙を飾っている。以上のように本誌の6巻1号から新しく模様がえされて，一層親しまれるように具体化したつもりである。（T.O.生）